

高麗橋 こうらいばし ●Korai-bashi  
(東横堀川)

高麗橋は、慶長9(1604)年には擬宝珠(ぎぼし)をもつ立派な橋であった。城下町である船場地区への交通に不可欠なこの橋は、大坂城が完成する天正14(1586)年頃にはすでに慶長9(1604)年頃の橋の前身が架けられていたと伝えられる。

橋名は、朝鮮からの使節を迎えた迎賓館「高麗館」に由来するものと、豊臣秀吉が東横堀を開削し橋を架けた当時、高麗との貿易が盛んだったことからという説がある。高麗橋筋は元禄時代から呉服商や両替商、糸屋などさまざまな職種の店が軒を並べ、人々の往来が絶えない交通の要所だった。また幕府が直接管理する公儀橋の中でも特に重要視する橋として、西詰に幕府の高札が立てられた。明治に入ると里程元標(りていげんびょう)がおかれ西日本の主要道路の距離計算の起点となった。

明治3(1870)年、橋はイギリスから輸入した鉄橋に架け換えられ、「鉄橋」とか「くろがね橋」と呼ばれ親しまれた。

現在の橋は、昭和4(1929)年に鉄筋コンクリートのアーチ橋に架け換えられ、欄干には青銅製の擬宝珠や親柱に角櫓(すみやぐら)が付けられている。

